

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年12月27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270300504		
法人名	有限会社プレア企画		
事業所名	グループハウスおよりの郷Ⅱ		
所在地	〒855-0874 長崎県島原市鎌田町丁 4133		
自己評価作成日	平成26年12月4日	評価結果市町受理日	平成27年1月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	http://www.kaigokensaku.jp
--------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町 3118-1
訪問調査日	平成26年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

のどか、のんびり、ゆったり の理念に基づき、入居者の方々の個性を尊重し、一人ひとりが自分らしく生活して頂けるように支援していくことをモットーとしております。共同生活の為、ある程度の制限が有るかもしれませんが出来る限り皆さんが、自由に、自分らしく、生き生きと暮らせ、人生の楽しい思い出になるよう心より応援したいと考えております。かつ家族の皆様とのコミュニケーションを大切にして、家族的で優しく暖かな介護を目指して頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

開設11年目を迎えた当該事業所は、「のどか、のんびり、ゆったり」の理念を実践し、常に入居者の仕草や表情、会話を通して人生の楽しみは何かと具体的に職員で話し合い、入居者の安心感があり居心地の良さを感じられる事業所である。施設長は障害者福祉島原半島 GH 連絡協議会の副会長を務め、また管理者も地域の障害者福祉や介護力の向上に日々尽力し、地域の中で更に身近な存在になりたいと地域福祉を支えることに真摯に向き合っておられる。管理者は外部研修の参加を通して他職種との情報交換の機会も多く、困難事例や制度の動向に敏感に反応し、また職員も法人内での学びの機会として介護技術や専門知識の習得で知識を深め、入居者の個性やこだわりを引き出し笑顔に繋げる支援がなされている。更に

日々の入居者との関わりに余裕をもって対応したいと明るく語る職員の姿から、ますます期待の持てる事業所である。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営者、管理者、スタッフが業務に取り組む心構えを基本として理念を作り上げた。	「のどか、のんびり、ゆったり」の理念のもと、入居者の生活リズムに寄り添いながら行動を見守り、慌ただしさを感じさせない介護の実践が入居者の安息や安心感に繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に積極的に参加し、地域の方たちと入居者の皆さんとの交流に努めている。	地域の舞踊サークルの慰問や保育園や高校、児童福祉施設との交流があり、島原の郷土芸能や沖縄舞踊の披露などを通して心の交流を持ち、地域との繋がりを持たれている。今後は更に地域に密着したいとの課題を掲げ、町内会への参加を検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習生を積極的に受け入れて介護技術の講習や認知症理解への啓蒙活動等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表の方が参加し、入居者の方の近況報告だけではなく、GHの業務の流れや介護保険等についての質疑応答なども行い、家族や地域の方たちとの相互理解に努めている。	推進会議では入居者の状況や活動内容の報告がなされ、介護保険制度の方向性を話し合う機会や家族の悩みを共有する場として活用されている。会議の内容は請求書と共に家族へ送付され、ホームの支援に対する透明性が図られている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の実施する研修等に出来るだけ参加するようにしている。	主に推進会議内で包括職員と共に地域の介護力不足や介護報酬に対する問題提議を行い、また、地域のGH連絡協議会に積極的に参加し、横の繋がりを深めながら地域が抱える課題に真剣に取り組む姿勢を持たれている。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、拘束の実績は無いが拘束についての意見交換を職員間で行っている。	「拘束を行えば不穩に繋がる」等、身体拘束を行った際の入居者の心情や弊害を理解し、入居者の状況に応じて夜間のみ赤外線センサーの使用等、迅速に対応できるように職員間で観察や話し合いの場を設けながら対処されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、職員間で意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	包括支援センターや参考資料を基に、職員間で意見交換をし、必要な方には説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情発生時には、話し合いの場を設けて解決に努めると共に、第三者機関の説明も行っている。	家族の面会時には入居者の生活の様子や心身の様子を報告し現状の理解や家族の要望を話しやすい環境作りに心がけている。定期的に事業所便りを発行し表情や活動の様子を伝えているほか、遠方の家族には電子メールを利用し繋がりを深める工夫もあった。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回、大全体会議、各事業所ではその都度意見交換をし、反映している。	管理者は職員それぞれの個性を認めながら考えや観点を聞き逃さないよう、打ち解けて話せる関係作りや日々の申し送りに際し、意見が言いやすい雰囲気作りに配慮し入居者にとって最善の方法で支援ができるよう意見の収集を大事にしている。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>必要に応じて、経営者・管理者が個別面談を行い、相談等を行っている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験の浅い職員には、研修等に参加すると共に、ベテラン職員による教育等も実施している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>既存のネットワークに、研修等を利用し他機関の職員との交流を積極的に図り、強化・活用に努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>アセスメント情報を基にして、生活歴等を考慮した本人に見合った介護を行うことに心がけている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>インテーク時より家族の意見をよく傾聴して、家族も含めた包括的な支援を心がけている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族・本人とよく話し合い、ニーズの決定を行っている。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の簡単な業務(洗濯物たみやテーブルふき、掃き掃除等)を共同作業という意識を持って行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時等に、話し合いの場を設定して包括的な支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来所された時は、快く迎えてこれまでの関係が継続できるようにしている。	入居をきっかけに途切れがちな家族や友人との繋がりを大事にし、気軽な訪問や電話の支援など、会いたい気持ちや寂しさに寄り添う支援がなされている。90歳の同窓会に家族の付き添いで参加を果たし、これまで大事にしてきた繋がりや自分らしさを支えた事例もあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等を通じて入居者間の交流を図り、全員が楽しく過ごせるように、働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば、親身になって応じている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思表示等困難な方には、アセスメントや日々の様子等で感じた事や訴え等に共感する姿勢で本人の気持ちを汲むよう心掛けている。	介護記録には入居者の言葉や表情、仕草が時間を追って記録され誰でもわかりやすいものに工夫されている。入居者の帰宅願望に対しては本人の家とはどこを指しているのか言葉の中から思いを検討し、意思疎通が難しい入居者にも家族からの聞き取りにより洋服やお化粧など、本人のこだわりを尊重しその人らしい暮らしの実践が感じられた。	

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビュー・アセスメント時に、家族や本人から得た情報を基にしてケアプランを作成し、それに基づいて、いままでの生活環境を少しでも保てるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や連絡帳、申し送り等を活用して継続的な支援が行えるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見や職員の意見等を、ケース会議を通じて介護支援専門員が取りまとめて、ケアプランに反映している。	介護記録には計画の内容や実施状況が細かく記録され、毎月実施状況の評価により変化の推移の把握がなされている。職員の意見も取り入れながら入居者の安全面に対する注意点もケア項目に取り入れられ、目標とする生活の実現にむけ具体的な表現で記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を毎日記録して、日々の状態の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが発生した場合は、ケース会議を開催して問題解決に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インターネットや地域情報誌・研修会等を活用して、地域資源の把握に努めている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけの医療機関と連携を取り、入所後の連携構築に努めている。	職員支援のもと、もともとのかかりつけ医を継続受診ができ、家族によっては電子メールで状況を報告するなど、家族の安心感にも繋がっている。かかりつけ医によっては入居者の体の負担を考慮し、往診対応やホームで点滴処置を行った事例もあった。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師と情報を共有して必要な情報、気付き等を担当医師へ伝え十分な治療、処置を行えるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も医療機関と連携を取り、退院後の支援に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常勤看護師や医師とも情報の共有を行っている。入居の際にご家族と書類にて同意を頂いている。ほか書面での契約は行われていないが、近隣の医療機関の医師とも協力が頂けるよう話がされている。	食事摂取状況や歩くスピード等、入居者の心身状況の変化をかかりつけ医に報告し医療の観点や介護の関わり方等症状を共有しながらその場に応じた適切な対応ができるよう対応されている。家族の希望により医療を選択される家族が多く看取りの経験はないが、今後本人や家族の意向があれば対応していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救急救命法の講習を積極的に受講し、AEDのリースを検討中。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防等の防災機関と連携をとり、実施する予定である。地震や津波等災害に応じた計画を検討中。	管理者は今年度消防学校での研修に参加し、消防機器の取り扱い方法や消火活動等難訓練を経験し、職員への伝達講習や推進会議での報告を通して災害時の対応方法の周知を図った。また雲仙普賢岳噴火の経験を通して地盤の確認や防災マップの掲示備蓄品の整備を行い自然災害への意識を持たれている。	災害時の対応については職員周知がなされているが、地域への明確な協力依頼や確認、また今年度の避難訓練の実施が未実施な状況であったため早急な訓練の実施と実施記録への訓練の振り返りを行い、課題や評価等可視化することで更なる安全性の高い体制を確保されることを今後期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本情報やケア・プランに基づき、個々人に見合った支援を行うように心がけているプライバシーへの配慮も行い自尊心も保たれるよう心がけている。	入居者への声かけの際は目線の高さを同じにし、入居者の仕草や表情に注目しながら入居者に対し不快な対応にならないよう注意を払っている。管理者は「お相手の方は自分を写した鏡」と自分の心の状態を鏡のように映し出して教えてくれる存在として、入居者の反応は自分の態度の振り返りであると職員に話されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の業務の中で、本人との会話の中から、本人が望む生活を聞き出し、少しでも実現するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が出来る限り、本人のペースで生活できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に職員が気を配り、身嗜みの支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく安全に食事が出来るように、職員全員が心がけている。	おいしいものをたくさん食べて心から元気になっていただきたいと、野菜を中心とした彩の良い献立が準備され、身体状況に応じた食器や食事形態の検討がなされ、自分でおいしく口に運べるよう工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを基に、バランスが取れた食事を提供している。		

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自の出来る部分と出来ない部分を見極めて、本人に適した支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護の必要な入居者に対しては、自尊心に十分配慮した支援を行っている。トイレへの誘導等が必要な場合はチェック表をもとに適切なタイミングで気持ち良く排泄されるよう心がけている。	トイレでの排泄を基本とし、意思伝達が困難な入居者に対しては言葉の使い方や排泄の意思を確認しトイレでの排泄に繋がっている。体型に合わせた便座の工夫や体調に応じて一時的にオムツを使用するなど、安易なオムツの使用は避け適切なオムツの使用がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表による間隔の把握に合わせて食物繊維の多く含まれる食材を使用したり、医療機関と連携して服薬による便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人のADL状況に見合った支援を行い、「楽しく入浴する。」ことを前提としている。	入居者の好みや生活習慣に応じて湯温の調整やタイミングの選択ができ、また浴槽で体を温める際にはゆっくりと寛いで入浴できるよう言葉かけを多くするようにしている。重度化した入居者に対して体が温まるよう十分な大きさの足浴用洗面器の購入の検討もなされていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の習慣に合わせた支援を行い、安心感が持てる、生活できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬ミスを起こさないことを最大限の支援として、服薬後は、様子観察等を行い、本人の状態把握に努めている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの生活の中で、その人に見合った役割分担を行い、生活の中に生き甲斐が持てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課の中に、ドライブや散歩を取り組み、外出の機会を確保するようにしている。	重度化に伴い入居者揃っての外出は困難な状況となっているが、入居者の体調を見ながら季節の花見やドライブに出かけ季節の移ろいを感じていただいている。帰宅願望で不穏になった入居者に対しても、車で自宅周辺や馴染みの場所にドライブに出かけ、寂しさに対する理解や気分転換に繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在対象となる方は居られないが、財布等の所持をされ自分自身で金銭管理が出来る方は、職員支援の下、管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・通信等の制限は、常識の範囲内で行っていない。本人が希望された時に電話をかけて本人へ変わっている。手紙が届いたときは代読することもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、職員と入居者の方たちの共同制作のハンド・クラフト等で飾りつけがしてあり、暖かい雰囲気を作っている。	職員により手入れがなされた共用空間は清潔感があり、ホール中央に据えられたソファには色とりどりのクッションや座布団、膝かけが添えられるなど温かさが感じられた。入居者同士が思い思いの場所で語り合うなど寛げる空間が準備されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に、ソファを配置して、入居者間の憩いの場として、活用している。状況に応じ、席替えをしている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個人の自由空間として、安全上問題の無いものは、持ち込み自由としている。	入居者の動線に応じてベッドの向きや家具の配置を工夫し、趣味のカメラや化粧品などの持ち込みで本人らしさを感じられるものとなっている。寝具の色合いや使い慣れたクッションなど入居者の好みのものが準備され居心地の良さが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人の適正に合わせた役割分担を決めて、情緒を配慮しながら生活の活性化に努めている。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない